



# ぽれぽれレター ぽれぽれレター

第30号  
2016.09.01



## 理念

「人よりそう ひらかれた病院」

### 病院基本方針

- ※安心・安全ながん医療を提供します
- ※医療提携を進め、地域医療に貢献します
- ※豊かな人間性を持った医療人の育成に努めます

### 診療案内

内科 外科 脳神経外科  
整形外科 耳鼻咽喉科  
婦人科 泌尿器科 放射線科  
消化器科 緩和ケア科  
乳腺外科 腫瘍外科 腫瘍内科

#### 【診療受付時間】

平日 8:30~16:00

土曜 8:30~12:00

#### 【診療時間】

平日 9:00~16:00

土曜 9:00~12:00

#### 【外来の休診日】

日曜・祝日・年末年始

#### 【お見舞い時間】

12:00~20:00



## 医療コラム

# 肺癌の最近の知見

肺癌は男女ともに悪性腫瘍の死亡原因の上位であり、男性では死亡原因の1位となっています。進行癌で発見される事が多く、約2/3の肺癌患者さんは手術ができずに内科的治療が第1選択となります。しかし、私が医師になった約20年前と比べると癌の治療の選択肢は広がっています。

早期肺癌については手術が第1選択になります。また全身状態から手術に耐える事が出来ないと判断された場合は、可能であれば放射線治療の定位照射や重粒子線治療などが選択肢として挙げられます。

進行肺癌では化学療法+放射線治療もしくは化学療法単独になります。



内科 米田医師

肺癌は大きく分けて小細胞肺癌(肺癌の約15%)と非小細胞肺癌(約85%)に分類されます。

特にこの20年で非小細胞肺癌の治療は大きな進歩を遂げました。肺癌の治療に使う薬としては①殺細胞性抗がん剤 ②分子標的薬 ③免疫チェックポイント標的治療薬(作用的には分子標的薬)の3種類があります。



20年前は①殺細胞性抗がん剤(細胞が分裂して増える過程に作用する抗がん剤。細胞増殖の盛んな細胞を障害する。)しかなかったので、肺癌の内科での治療はすべてこの殺細胞性抗がん剤でしかできませんでした。脱毛や嘔気、骨髄抑制など患者さんにとってはつらい副作用があります。現在でも、肺癌の化学療法の中心的な存在です。

この現状に変化が起きたのが21世紀に入って発売された②分子標的薬です。従来、肺癌は遺伝子を傷つける発癌物質を多く含むタバコの影響で語られることが多かったのですが、非小細胞肺癌において発癌・増殖の原因となる遺伝子変異がいくつか見つかりました。

特にEGFR遺伝子変異(非小細胞肺癌の患者さんの約20%で陽性)やALK融合遺伝子(同じく約4%で陽性)などの遺伝子変異は非喫煙者に多い事が分かっています。この遺伝子を標的にしてつくられたのが分子標的薬です。

EGFR遺伝子変異をターゲットにした薬としてイレッサやタルセバ、ジオトリフがあり、ALK融合遺伝子をターゲットにした薬としてザーコリやアレセンサなどがあります。

## 院内のあんなとこ こんなとこ...



屋上に【おばあちゃんの話】というモニュメントがあります。

ほっこりするモニュメントです。屋上でほっこりしてみたいかがでしょうか...



これらの分子標的薬はその遺伝子変異がある人に適応があり、奏効率(腫瘍が50%以上縮小する確率)が70%~90%以上と、今までには考えられなかった治療効果が得られます。この薬を使用できる人は非小細胞肺癌の4人に1人しかいませんが、この分子標的薬が発売されてから肺癌の患者さんの生命予後は著しく改善しました。



そして2014年になって発売されたのが**③免疫チェックポイント標的薬ニボルマブ**(商品名 オプジーブ)という薬です。この薬の作用機序は、癌が免疫から逃れるためのチェックポイントシグナルPD-1を抑制することにより、リンパ球による癌への攻撃を促進することにあります。非小細胞肺癌でも今年から保険適応になりましたが、奏効率が約20%で5人に1人しか効果が得られません。また、頻度が少ないながらも重篤な副作用が存在する事、薬価が高額で1人の人に1年間使用し続けると年間3000万円以上かかる事などが問題点として挙げられています。

以上のように、肺癌の化学療法について書きましたが、現在の肺癌の治療は個別化医療であり、肺癌の患者さんがすべて同じ治療を選択するわけではなく、その患者さんに応じた治療を決定することが主流です。これには患者さんとご家族、医師をはじめとする医療スタッフとの話し合いが重要になります。当院でも内科で肺癌の治療を専門とするスタッフがいますので今後の治療方針の決定にお役に立てれば幸いです。



## 彩都のまちから

2015年4月にオープンした関西最大級のガーデンセンター「the Farm UNIVERSAL」のご紹介です。コンセプトは「すべての人が楽しめる植物の楽園」約2000平米もある広々とした敷地内には**5つの要素**が詰まっています。



「食べる」••植物に囲まれた気持ちのいいカフェ「FARMER'S KITCHEN」では美味しいドリンクや食事はもちろんのこと、窯焼きの出来たてのピザ、室内と思えないような植物あふれる空間で食事が楽しめます。「買う」••庭やベランダ、室内など様々なシーンに向けた多種の植物、雑貨、肥料、ガーデニング資材など豊富な品揃え。「遊ぶ」••ツリーハウス、ブランコ、滑り台など緑の中で楽しめる仕掛けを盛り込んだ道具いっぱいの子供達の遊び場。「学ぶ」••植物の扱いがわからない方には、スタッフから丁寧に植物の育て方を教わることができます。「撮る」••写真を撮りたくなる撮影スポットがたくさん。ご家族みなさんと撮影を楽しんで下さい。

大人から子供まですべての人が植物を愉しむためのガーデンセンターです。植物が好きな方はもちろん、そうでない方も「また行きたい!」と思える素敵な空間です。みなさんも是非一度、足を運んでみてください。



編集後記：オリンピックが開催され、TV観戦や応援に「熱中」した人も多いのでは？  
残暑も厳しいようですので、これからは「熱中症」に注意しましょう。(常島)  
発行者：中村仁信(病院長) 〒567-0085 茨木市彩都あさぎ7丁目2番18号  
編集長：福西康修(放射) TEL072(641)6898 Fax072(641)6097  
編集委員：村井祐子(医師) 岩切昭夫(看護) 常島啓司(情報) 林綾子(看護)  
志田原直子(医事課) 春名雅裕(リハビリ) 松尾真奈美(放射)



<http://www.saito-yukokai-hp.jp/index.htm>  
「ほれほれ」はホームページからダウンロードできます!  
このニュースレターご希望の方は総合受付・地下受付にお越し下さい